

旧泉佐野コスモポリス用地の有効利用について

提言

財団法人泉佐野市公園緑化協会

平成18年9月

はじめに

この提言内容は、府政へ連帯する視点から、幅広い府民の参加により行われたワークショップの中で取りまとめられたものです。

この提言内容は、旧泉佐野コスモポリス用地が地域の貴重な環境財産として今後に生かされ、移り変わる新しい時代の中で、新たな環境価値を創造し続けるエリアであるため、府民と行政の協働による望ましいあり方を考える内容となっています。

ワークショップの流れ

① ワークショップ参加者の募集

当協会ホームページやチラシなどの媒体を使って広く募集を呼びかけ、開かれたワークショップを目指しました。その結果、次ページのとおり14名の参加を得ました。

② 現地の見学

これまで、許可を得て活動してきたエリアを中心に、全体の概況を観察し、地域固有の環境材としての価値や問題点などの確認を行いました。

③ 現時点での情報確認

大阪府の土地利用検討委員会から発信されている情報や、地図、航空写真、独自に調査してきた情報などから、現在の状況について確認を行いました。

④ 問題分析

②・③で参加者それぞれが感じ取り、認識した問題の洗い出しと、提起された全ての問題の体系化を行い、問題系図を作成しました。

⑤ 目的分析

洗い出した問題が、それぞれに解決した状態はどのようなものかを検討し、問題が解決した状態とそのための方針の洗い出しと体系化を行い、目的系図を作成しました。

⑥ プロジェクト概要表の作成

目的系図をもとに、目的の実現に向けたいくつかのアプローチをプロジェクトととらえ、プロジェクトの方法と成果の検証を含む概要表を作成しました。

ワークショップの内容

① ワークショップの運営手法

このワークショップでは、参加者の思いを論理化し、より具体的な展望を得るためにPCM (Project Cycle Management) 手法で運営しました。

② 参加者

公募によって、専門家・研究者を含む府民14名の参加を得ました。

- ◎ 20歳代女性：堺市在住(大学生)
- ◎ 30歳代男性：堺市在住(大学院生)、泉佐野市在住(会社員)
- ◎ 30歳代女性：堺市在住(会社員)
- ◎ 40歳代男性：田尻町在住(大学教員)
- ◎ 40歳代女性：泉南市在住(会社員)、阪南市在住(会社員)
- ◎ 50歳代男性：吹田市在住(大学教員)、羽曳野市在住(会社員)
和泉市在住(大学教員)、阪南市在住(会社員)
- ◎ 60歳代男性：岸和田市在住(会社員)
- ◎ 60歳代女性：岸和田市在住(博物館員)
- ◎ 70歳代男性：泉佐野市在住(里やまボランティア)

③ 問題分析(問題系図)

旧泉佐野コスモポリス用地が抱えている問題を、参加者が感じとった事象として洗い出しました。それら個々の問題を、「原因-結果」の関係に体系化し、問題系図を作成しました。最上段に中心問題、その下に直接原因、さらに下に個々の原因が表現されています。

④ 目的分析(目的系図)

個々の問題が解決した状態とはどういうものかを検討し、同時にその状態を達成するための手段についても洗い出しました。それら個々の状態や手段などを、「目的-手段」の関係に体系化し、目的系図を作成しました。最上段に中心目的、その下に直接手段、さらに下に個々の手段が表現されています。

⑤ PDM (Project Design Matrix) の作成

目的系図をもとに、直接手段を個々のプロジェクトにとらえ、プロジェクトの進め方、必要な条件、達成の検証方法などを網羅した概要表を作成しました。

問題系図

参加者全員で問題を洗い出し、下方に原因、上方に結果の関係になるように、それぞれの問題の関係づけを行い、問題分析としました。

その結果、用地が抱える中心問題は、この場所の魅力が見えていないことであり、その直接原因は次の2点であることが確認されました。

中心問題：魅力が見えない

直接原因：①魅力ある資源が活用できない

②生きものがいない(割にいない)

直接原因①の原因は、いろんな人が利用できる山ではないことや、安心して楽しめないこと、魅力を伝える方法がないことなど、7つの原因が挙げられました。

直接原因②の原因は、奥山と分断されていることや、自然が荒れたこと、雨が流れすぎることの3つの原因が挙げられました。

これらそれぞれについても、その原因となる事項を系図に示しています。

系図は下に行くほど中心問題の遠因であり、上に行くほど近因である、という構造をしています。

また、素朴な疑問として、破綻処理等による借金のことは考えなくて良いのか、という問題が示されていますが、これについてはワークショップで位置づけすることが難しい問題であり、体系に組み込むことをしませんでした。

目的系図

問題系図で取り上げた個々の問題について、その問題が解決した状態とはどのようなものかを検討し、解決後の状態を示す表現に置き換え、下方に手段、上方に結果の関係になるように、それぞれの目的の関連づけを行い、目的分析としました。

その結果、エリアが求めるべき中心目的は、この場所の魅力が見えている状態になることであり、そのための直接手段は次の2点であることが確認されました。

中心目的：魅力が見えている

直接手段：①魅力ある資源が活用できる

②生きものが色々いる

直接手段①を実現するための手段には、魅力を伝える方法があること、いろんな人が利用できること、周辺との連携が取れることなど、6つの手段が挙げられました。

直接手段②を実現するための手段には、自然が生き生きしていること、雨を池や棚田で受け止めることの2つの手段が挙げられました。

これらそれぞれについても、さらにその手段となる事項を系図に示しています。

系図は下に行くほど、中心目的を実現するためにとるべき具体主題になっています。

プロジェクトの概要表

プロジェクトの概要表は、〇ページにマトリクスのそれぞれのセルにどういうことを示しているのか、その内容をまとめています。目的系図で示された内容をもとに、何のために、いつまでに、何をしなければならないのか、そのメニューを含めたプロジェクトの概要の一覧です。

おわりに

当協会は、大阪府の動きに先立ち、長年放置されてきた旧泉佐野コスモポリス用地の再生に向けた取り組みを行ってきました。

この間、ボランティアとして用地の再生に関わっていただいた府民の皆様は、優に一千人を超えるものとなっており、これら府民の関心の高さは、ひとえに本用地に潜在する《里やまの魅力》であることに他なりません。

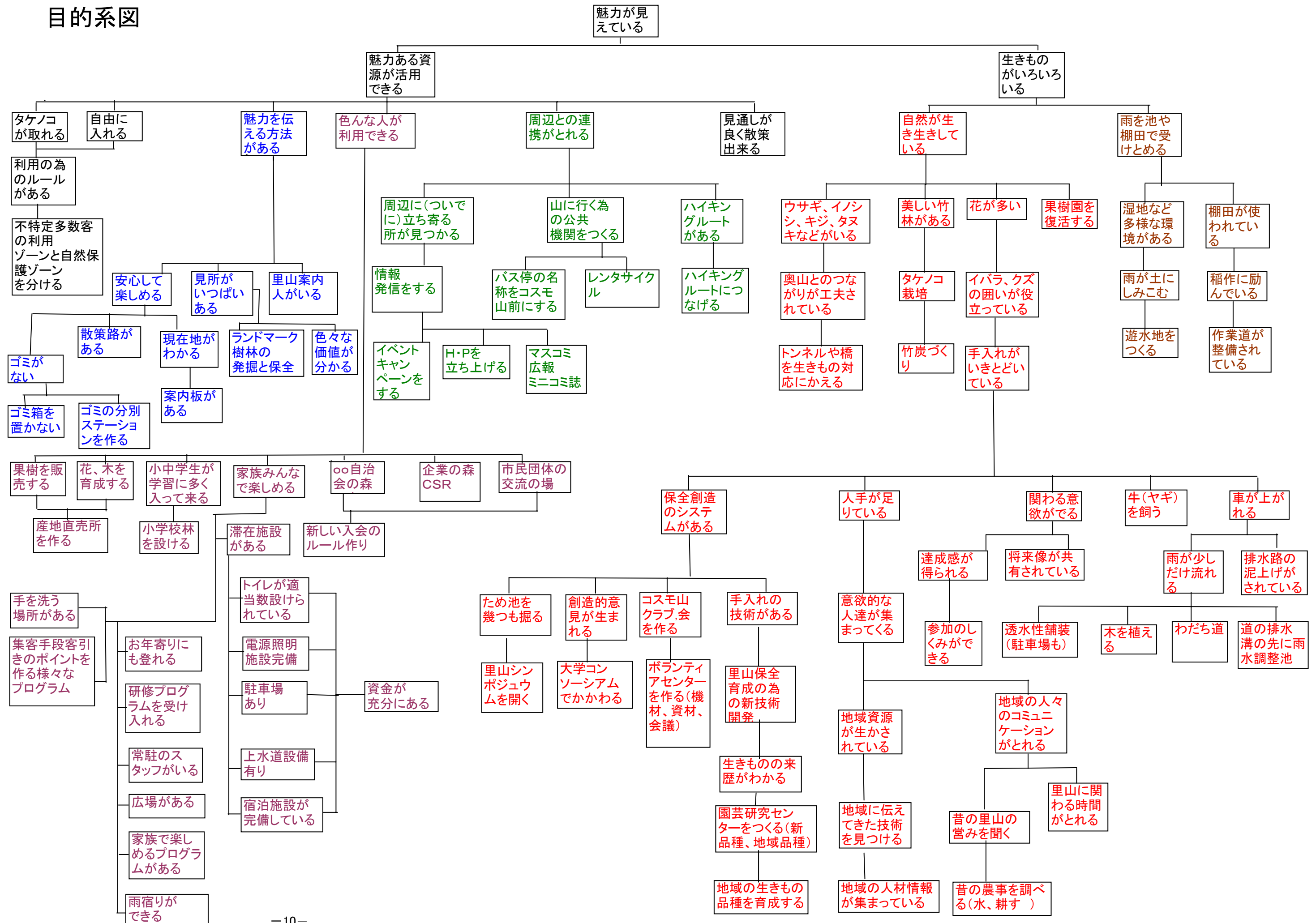
このたび、大阪府から出された土地利用計画案は、都市公園事業手法や民間活力の導入による《新しい公園づくり》であり、当協会としては、基本的に賛成の立場を表明するものですが、この計画案づくりには府民や地域との協働の視点が不足していたという認識も持ち合わせています。

府政に連帯し、多くの府民の参加により行われたワークショップで《現代的な里山文化の創造》が目標となった本提言内容が尊重され、これからの《新しい公園づくり》に導入されることを願ってやみません。

さらに、今後の具体的計画づくりや維持管理、運営活動に多くの府民や地域の声が反映され、自らが参加参画することのできる枠組みづくりなど、協働の視点で具体的な手法を取り入れていただくことを合わせてお願いするものです。

私たちも、これからの取り組みの具体的な内容についても、自己研鑽をかねて検討を継続してまいります。

目的系図



プロジェクトの要約		指 標	検証の手段	外部の条件
上位目標	・現代的な里やま文化の創造	・2025年ころに地域の技術で25%が里やまとして維持されている	・特産物の数 ・維持に関わる人の数 ・来訪者の数 ・生きものの種と量	
のプロジェクト	・魅力ある資源が活用できている	・特産物が流通している ・四季を問わず来訪者がいる	・特産物の流通量 ・来訪者数と満足度	・周辺環境の保全
成果	・いろんな人が利用できるよくなっている	・利用のメニューとルールができている	・スタッフの充実度	・PR活動 ・ライフスタイルの変化
活動	①交流の場づくり ②活動拠点づくり ③新しい、いりあい(入会)のルールづくり ④里やまの達人の養成 ⑤教育機関との連携 ⑥地域との連携 ⑦プラットホームづくり	投入資源 ・里山会議(の設立) ・事務局(の設立) ・活動のチェック機関 ・農具、農事 ・活動資金 会費、賛助金、寄付金、補助金 助成金、収益 ・学校 ・農業者(土地改良区) ・メディア(有名人)	・特区の活用 ・制度の調査と活用 ・大阪府 ・泉佐野市 ・近畿農政局 ・近畿地方環境事務所 ・近隣の里山活動団体 ・マーケティング	・メディアがとり上げる
前提条件 ・大阪府、泉佐野市の協力 ・今、関わっている人たちの参画				

プロジェクトの要約		指 標	検証の手段	外部の条件
上位目標	・現代的な里やま文化の創造	・2025年ころに地域の技術で25%が里やまとして維持されている	・特産物の数 ・維持に関わる人の数 ・来訪者の数 ・生きものの種と量	
トップの目標	・いろいろな生きものにふれあえる	・四季を問わず自然あそびが見られる	・あそびの種類 ・生きものの種と量	・周辺との生態的連携
成果	・多様な自然で構成されている	・保全と活用のゾーニングができています	・動植物の継続調査 ・土地利用状況調査 ・地域の農事調査	・知名度の向上 ・周辺環境の多様化
活動	①里やま的土地利用計画づくり ②里やまの担い手づくり ③里やま保全復元技術づくり ④生物の専門家との連携 ⑤自然あそびの専門家との連携 ⑥地域との連携 ⑦生きものに優しい農林業の継続 ⑧里やまこどもくらぶ ⑨自然観察会	投入資源 ・里やま会議の設立 ・事務局の設立 ・里やまセンター (インフォメーションセンター) ・地域団体を維持するための圃場 ・活動資金 ・学校 ・農業者 ・特区の活用 ・制度の調査と活用	・行政 ・調査研究者 ・郷土史研究者	・活動の広がり
前提条件 ・大阪府、泉佐野市の協力				

プロジェクトの要約		指 標	検証の手段	外部の条件
上位目標	・現代的な里やま文化の創造	・2025年ころに地域の技術で25%が里やまとして維持されている	・特産物の数 ・維持に関わる人の数 ・来訪者の数 ・生きものの種と量	
プロジェクトの目標	・いろんな生きものにふれあえる	・四季を問わず自然あそびが見られる	・あそびの種類 ・生きものの種と量	・周辺との生態的連携
成果	・里やまが充分水をたくわえている	・ため池がある ・棚田、湿地、池などがある	・水路に常に水が流れている ・湿地と棚田が維持されている	・奥山の保全 ・周辺での営農の継続
活動	①保水計画づくり ②植樹と育成の計画づくり ③わだち道づくり ④ため池、水路の維持 ⑤棚田の耕作 ⑥間伐と下草刈り ⑦池づくり	投 入 資 源		・伝統技術の再評価
前提条件 <ul style="list-style-type: none"> ・大阪府、泉佐野市の協力 ・土地改良区の協力 				

プロジェクトの要約		指 標	検証の手段	外部の条件
上位目標	・現代的な里やま文化の創造	・2025年ころに地域の技術で25%が里やまとして維持されている	・特産物の数 ・維持に関わる人の数 ・来訪者の数 ・生きものの種と量	
トップの目標	・魅力ある資源が活用できている	・特産物が流通している ・四季を問わず来訪者がいる	・特産物の流通量 ・来訪者数と満足度	・周辺環境の保全
成果	・魅力がわかりやすく表現されている	・来訪者がみんな楽しめている	・リピート率 ・増加率	・周辺の魅力、資源ネットワーク ・アクセス手段の充実
活動	①魅力の発掘 ②案内マップ作り ③サインづくり ④ホームページの立ち上げ ⑤広報 ⑥イベント ⑦里やま案内人の養成 ⑧地域材を活用した施設づくり	投 入 資 源		・環境教育の高まり
前提条件 (特になし)				

ワークショップの流れ

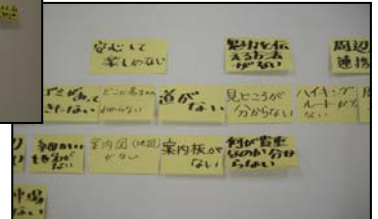
◆現地の見学（コスモ山）

6月17日



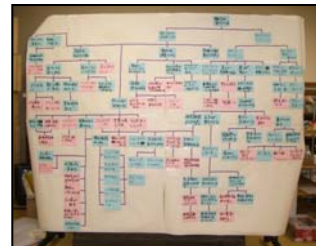
◆問題分析→問題系図の作成

6月24日



◆目的分析→目的系図の作成

7月15日・29日



◆プロジェクト概要表の作成

8月12日・23日

